

平成29年度 第1回 岡山県社会教育委員の会議

平成29年8月28日（月）

1 開 会

開会 あいさつ

- ・岡山県社会教育委員の会議 議長 濱田 栄夫
- ・岡山県教育庁生涯学習課長 石本 康一郎

2 説 明

(1) 平成29年度主要事業について

○一括説明 生涯学習課長

【質疑応答】

- ・盆踊りを復活させた事例について、どういう経緯で復活したのか。先生か生徒のどちらが言い出したのか。
- ・地域から声が出たのがきっかけ。また、地域と学校をつなぐブロック会議が各中学校区単位で年2回あり、その中でも声が出ている。それを先生が聞いて帰って発展した。加えて、公民館の取組が地域連携の重要な役割を担っている。昨年中央公民館で中高生のボランティア募集を始めており、その取組も連動している。

○各委員より補足説明

- ・岡山県PTA連合会
- ・特定非営利活動法人岡山市子どもセンター
- ・やかげ小中高こども連合(YKG)
- ・美咲町境神社応援隊（地域コーディネーターの立場より）

【質疑応答】

- ・美咲町の神社の応援隊について、新しく入ってきた人と、地元の人との関係はどうか。
 - この地域は、Iターン、Uターンの人が多い。今回も中心的な役割を担うなど積極的な関わりをしている。
 - 過去に、他県の事例で地元との関わりで上手にできなかった事例がある。しかし、美咲町の取組は上手くいっている。もっと知ってもらってもいいのではないか。
- ・「中高生が活躍！おかやま創生を支える人づくり推進事業」のような事業は急にはできない。是非、継続していただきたい。
- ・中高生がボランティアに参加しにくい原因は、評価に取り組まれていないのが原因だ。評価の仕組みが必要ではないか。

3 協 議

(1) 調査研究について

○一括説明（研究の経緯について） 専門部会長

【質疑応答】

- ・ワークショップに至るまでの準備が相当あったのではないか。説明にあったように、途中のプロセスが少しでも可視化されるといい。
- ・優れた事例は、実践内容や取組の成果は報告書で見ることができる。しかし、そこにたどり着くために、大人が何をどのように学び、どのようにしてそれを乗り越えていったのか書かれていない。そこで、本研究ではワークショップ等実践し、その部分を可視化させることとした。研究報告では、優れた事例のよ

うに至るまでには、支援やワークショップが必要であること、そこでのポイントを整理することとする。

- ・学校の実践について、事後の協議で話したが、学校に関係のある人は集まりやすく、関係のない人、不満のある人を協議の場に集めることは難しい。本校は地域との関係を上手くやっていける方だが、それでも苦情はある。苦情を少なくするためには、色々な取組を見せていくことが必要だ。ただ、それでも先ほどのような方に来ていただくことは難しく、課題だ。
- ・ビジョンを共有する取組がいい。具体的な内容では意見がぶつかるが、視点を変えると話し合いができたり、協力することができたりする。ビジョンはみんなで作って、みんなで共有する大きな目標だ。多くの対立は目の前の方法論でぶつかっている。視点を変え、「具体的な実践内容から目標を考えること」、「大きな方針から具体的な実践を考えること」、この行ったり来たり的重要性が言えたらいい。
- ・学校の実践で、ある子どもが、「みんなでカードに書き、まとめていくこと」このやり方は、「ゲームのようで、学校でやってみたい」と言っていた。この子は面白みを感じていて、大人にやらされている感じはなかった。主体性を引き出す方法として報告していただきたい。
- ・NPOの実践では、「自分たちが今何をやっているのか」、「お互いに協働すると何ができるのか」、発想を広げることができた。また、このような場をたくさん作っていけたら、地域の中で取組を広げていくことができるのではないかと感じた。
- ・今回は行政が関わっているが、地域で独自にやるには行政の関わりがなく、自発的にできるようにしなければならない。そこは今後の課題だ。
- ・今回は社会教育委員が自ら実践した点を強調して欲しい。各委員は各団体から来ていて、実践することで、改めて委員の力を知ることができた。また、各委員が各団体で活躍しており、その力を有効に活用しながら研究を進めることも、今後、大切にしていきたい。
- ・今回の研究の先にあるもの、見通しは何か。そこを示さないと手段のための研究になってしまう。そこを整理すべきではないか。なぜ地域づくりなのか。この部分を示して欲しい。

○骨子案について（一括説明） 事務局

【質疑応答】

- ・提言をどういう形ですか、まだはっきりしていない。専門委員会で協議することにする。
- ・先ほどの見通しについてだが、子供たちの自発的な取組につながればいいので、具体的には、「だっぴ」の様な活動をした後、「YKG」の様な形につながればいい。
- ・多様な人たちが対話することが大事なのではないか。今の社会では、対話ができにくかったり、途中で対話が切れていたり、面と向き合って対話ができにくい社会だ。いろんな人と向き合い、自分と向き合い、対話の中から活動が生まれてきて欲しい。しかも自分たちが気づき、活動に結び付け、大人が応援したり、地域が支えていける活動になればいい。学びの循環もそこから生まれてくるといい。
- ・それがまとめなのか、それとも出発点なのか。今回の研究は、そうなるために協議の場が必要ということでスタートしてる。当初、「地域づくり」はとても抽象的なので、「持続可能な地域づくり」として研究を進めた。そして、「持続可能な地域づくり」とは何か考え、岡山に欠けているものは、ビジョンの共有とか協議の場ということだった。そこで、この部分をもう一度再確認しようという研究がスタートしている。いずれにしても、専門部会で協議が必要だ。

- ・活性化した地域には、「よそ者・若者・ばか者」と呼ばれる人が必ずいる。このテーマで「子供を核にした地域づくり」を本気で考えるリーダーが必ずいるはずだ。「ばか者」は言い換えると、本気者だ。本気でやる人がいないと、まとまらない。子供が生き生きと活躍することを提供でき、それをもって全体をまとめることができるかどうかが大重要だ。